

瓜生寅 幼少英學者、實業家。天保十二年一月十五日越前國生れ、大正二年一月二十二日没（八四一九三）。舊姓多部、字三寅、幼名虎作、二寅。號六合魁民、於菟子、梅村、梅村吟沼、梅村病客、梅村隱士、梅花郵莊、梅郵瓜寅、知波知口齋等。幕府の英學教授と經て、維新後明治政府の出任、學制、印紙稅則制定の關與。明治十一年退官し、會社顧問、馬關商業會議所副頭取と歷任。また下關の瓜生商會を經營し
た。

著書の「中外貨幣度量考」（瓜生三寅名、内題「貨幣度量考」明治元年冬、京都・竹書樓發兌）、「瓜生氏日本國畫」全八冊（瓜生三寅名、明治五年十月名山閣刊）、新「鑄尺牘雙魚」全五冊（明熊寅幾名、内題「新鑄熊寅幾尺牘雙魚」明治十一年一月梅花郵莊藏梓、山中市兵衛發兌）、諸淫兒遜（ジョン・アングルソン）著「諸氏材力論」（譯、内題「材力論」明治十二年二月文部省）、「瓜生判官事蹟」（明治二十七年十一月四日博文館）、「國史の研究」（明治四十年七月二十日吉川弘文館）、「マルコポーロ紀行」（譯補、明治四十五年四月）、「十二位博文館」等。

